

第 8 回
東邦大学理学部
FDワークショップ
報告書

2011年9月7日・8日



東邦大学
理学部

第8回 東邦大学理学部FDワークショップ

《 目 次 》

巻頭言（学部長）.....	1
学長あいさつ.....	2
プログラム.....	3
参加状況.....	4
アンケート集計結果報告書.....	5
まとめ.....	31

巻頭言

今年で8回目の理学部FDワークショップは1泊2日の日程で開催されました。昨年度からFDは理学部教育開発センターが担当しており、本来のFDの趣旨に立ち返って、教員の教育力向上のために組織的に研修する場にしようという目的で企画されています。本年度は(株)ラーニングバリューに委託し、「傾聴のコミュニケーションについて理解を深めるプログラム」で研修を受けました。教員相互の意思疎通をスムーズにするだけでなく、この研修を通して学生支援につながるファシリテーションも体験するのが狙いです。教育現場では職員の方々の役割が次第に大きくなっており、学生対応では相互の協力体制が欠かせません。そこで、今回は各部署から職員代表にも参加していただきました。教員と職員が意思疎通を図る機会は日頃なかなか得られないのですが、本研修期間中に相互理解がとてもし進んだように感じました。今後、教職員一体となつての研修の機会がますます増えることを望みます。

研修プログラムは個人ワークとグループワークから構成されており、ラーニングバリューのファシリテーターの方の説明では、それらの作業を通して「自己理解を深め」、「他者の自己理解に協力し」、「チームビルディングを体験する」ことが出来るそうです。研修を終了した現段階で参加者が学んだことは個々人で異なるように思いますが、今後徐々にこれらの成果が現れてくるのではないかと期待しています。

最後に今回のFDを担当してくださった教育開発センター運営委員の先生方、裏方としてご協力くださった教務事務の皆様には心より感謝申し上げます。特に千葉教授、佐谷さん、有難うございました。また、お忙しい中ご参加くださった青木学長、小野特命学長補佐にも深くお礼申し上げます。

なお、参加教員数が非常に少ない学科があったことは誠に残念でありました。理学部FDは自身の日程が空いていれば参加するという意識ではなく、日々変化が著しい教育現場に身を置く者として、教員自身の意識改革を進めるためにも、「最優先で参加すべき重要な取組み」として位置付けていただきたいと思います。強く願うものです。

平成23年9月20日

理学部長 大島範子

第8回理学部 FD ワークショップ ー有意義なコミュニケーション研修プログラムー

学長 青木 継 稔

理学部 FD ワークショップは、第8回を迎えてウィシュトンホテル・ユーカーリ（佐倉市ユーカーリが丘駅前）にて、2011（平成23）年9月7日（水）・8日（木）1泊2日の開催でした。理学部教育開発センター長の高橋正教授が総括責任者であり、アドミニストレーターは、千葉康樹教授が務められました。

今回は、主テーマ『コミュニケーションー傾聴について理解を深める研修プログラムー』であり、サブテーマとして「研修を通して学生支援につながるファシリテーションも体験する」が掲げられました。実際には、(株)ラーニングバリューから2名のファシリテーターと1名の外部事務員が今回のFDをリードされました。大島範子理学部長をはじめ、70余名の教員とSDということもあり8名の事務職員も参加されました。6～7名の小グループづくりに始まり、色々な小テーマに従って、全員参加の真のワークショップが繰り広げられ熱心な討議とプロダクトが示されました。コミュニケーション能力開発を主眼に、参加教職員は貴重な体験があったものと拝察します。この経験は、明日からの日常の教育現場や学生と接する部署の現場に活用されることが最も重要と考えます。

各学部 FD ワークショップと大学院各研究科 FD ワークショップは、文部科学省から義務化されました。義務化されたため、何とか実施して実績を残しておけばよいとか、大学基準協会の大学認証評価において実施しないと悪い評価になってしまうから、毎年実施するというセレモニーではありません。学部教育や大学院教育は、普遍的なものも沢山ありますが、時代の変化とともに、カリキュラムや教育技法あるいは教育論など、世界的潮流の中に日々進化しています。この教育の流れを広い視野の中に察知することを含めて、学部内の教育・研究的な問題は山積していると思います。これらの諸問題の解決方法として、FD ワークショップは優れた手法と考えます。文部科学省・中央教育審議会は、毎年色々な答申を出しています。この数年をみましても、(1)キャリア教育の低学年からの導入、(2)教育情報の公表の義務化、(3)大学認証評価制度の導入、(4)FDの義務化など枚挙にいとまがありません。

今年のFDワークショップの企画はとても良かったと思います。企画導入された理学部教育開発センターのセンター長・高橋正先生とアドミニストレーターの千葉康樹先生はじめ多くの先生に感謝申し上げます。また、理学部長・大島範子先生のリーダーシップとFDへの支援は大きな推進力となりました。最後に、お世話くださった事務局の方々に感謝申し上げます。

2011（平成23）年9月吉日
学長室にて

傾聴のコミュニケーションについて理解を深める研修プログラム

－研修を通して学生支援につながるファシリテーションも体験する－

	1日目		2日目
		9:00	⑧グループワーク 実習「対人コミュニケーションについて」 ・解説「創造的対話」
10:30	①オリエンテーション ②個人ワーク・グループワーク 実習「あなたの学習スタイル」 ・解説 ③グループワーク 実習「グルーピング・記者会見」		⑨グループワーク 実習「バスは待ってくれない」 ・実習のふりかえり
	昼食		昼食
	④グループワーク 実習「総当たりインタビュー」		⑩個人ワーク・グループワーク 実習「イメージ交換」
	⑤グループワーク 実習「課題解決実習」 ・実習のふりかえり		⑪得たこと学んだこと
	⑥グループ討議 実習「私の価値観」 ・実習のふりかえり	15:00	⑫まとめ
19:00	⑦ふりかえり		

* プログラムの内容や進行については状況により変更の可能性があります。ご了承下さい。

禁無断複製・無断使用 (株)プレスタイム / (株)ラーニングバリュー

参加状況

	教員	(教員内訳)	職員	(職員内訳)	合計
1日目	70名	Aグループ 40名	11名	Aグループ 0名	81名
		Bグループ 30名		Bグループ 11名	
2日目	67名	Aグループ 39名	11名	Aグループ 0名	78名
		Bグループ 28名		Bグループ 11名	

2011 年度
東邦大学

FD研修
アンケート集計結果
報告書

2011 年 9 月

株式会社ラーニングバリュー

東邦大学



目次

研修概要	7
------	---

東邦大学

Q 1. この研修に参加する前の期待度とその理由について	8
Q 2. この研修を受けての満足度とその理由について	12
Q 3. この研修を受けて、傾聴のコミュニケーションについてどのようなことが大切だと感じたか	17
Q 4. この研修を受けて、今の状態に一番近い気持ちを「ひとこと」であらわすとまたその理由	20
Q 5. この研修の講師について感じたこと	24
Q 6. この研修について感じたこと、気づいた点など	27

*アンケートのフリーコメントについては、記入されたままを再現しています



研修概要

■研修対象

教職員

■実施日

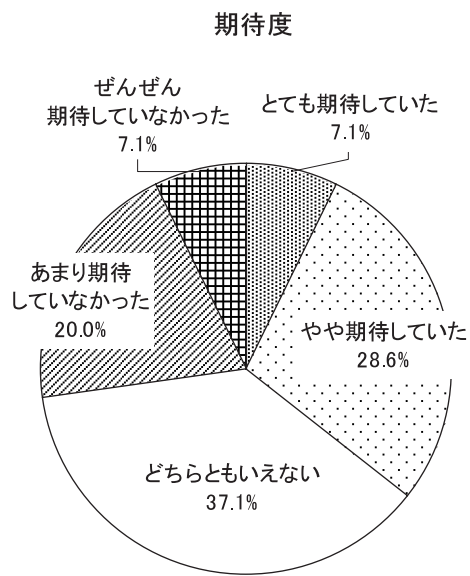
2011年9月7日(水)－8日(木)

■アンケート回答者

70名



Q 1. この研修に参加する前の期待度とその理由について



期待度		とても期待していた	やや期待していた	どちらともいえない	あまり期待していなかった	ぜんぜん期待していなかった	無回答
全体	70	5	20	26	14	5	0
		7.1	28.6	37.1	20.0	7.1	0.0

(上段:人, 下段:%)

フリーコメント

【とても期待していた】

- 新たな自分の発見。
- 傾聴のことなので、学生のクレームに対しての対応に役立つと大いに期待していました。
- すでに「自己の探求」を受けたことがあった。
- 本当に自己の探求が出来るのではないかと非常に期待していた。
- やった事のないものだったのでとても楽しみにしていました。自分にプラスになるかもしれないことは何でもやってみたい。

【やや期待していた】

- 学生さんから傾聴によって本音の意見を引き出すテクニックを学べると思ったから。
- 期待していたが、事前に内容を知らされていなかったなので、何やるの？という気持ちが少しあった。
- グループワークの生かし方を学べると思って居た。
- 傾聴という言葉をあまり聞いたことがなく、どのようなことを行うのかわからなかったから。
- このような研修を受けたことがなかったので、興味があった。他人とのコミュニケーションをよりうまくとれるようになればうれしいと思っていた。
- コミュニケーションがうまくない（性格的に外向的でない）のを承知しているので何か参考にできればと思っていた。
- コミュニケーションがどちらかというと苦手でしたので、この研修でヒントが得られればと思っていた。
- コミュニケーション能力は生きてゆく中でも、教育においても非常に重要な部分であるし、自分にとってその能力が少しでも向上すればよいと思いました。
- 自己の探究になるいい機会だと思いました。
- 事前に内容を知らされていなかったなので、期待半分、不安半分でやや期待していた。
- 自分がコミュニケーション系の講義を担当しているため、スキルアップになると思った。
- 自分からは決して参加しないタイプの研修なので。
- 自分の苦手なコミュニケーションの FD ということで期待していた。ただ、具体的にどのようなことをやるか、事前によくわからなかったなので、右から2つ目にとどまっていた。
- それほど身につくものか、多少疑問があった。
- 他の教職員との交流が深まることを期待して。
- どのような内容の研修なのかあらかじめほとんど知らされておらず、目的だけを聞いていた。ただ、プロのかたが実施されるということなので、期待はややしていた。
- 内容が全く想像できなかったなので、“やや”期待していた。インタビュー、記者会見がめんどろな印象だった。




- 苦手意識のある分野なので。
- 理学部のワークショップとして受け入れられるのかどうか少し心配している所はありました。それと同時に一人のメンバーとして研修に参加出来ることを楽しみにしている部分もありました。
- ワークショップに参加するのが初めてであり、どのような感じかわからなかったが、成長できる機会だと捉えていたため。

【どちらともいえない】

- 「傾聴」というキーワード以外に何も知らされていなかったため、何をやるか分からなかった。
- 2日間という短期間では、まとまった成果はなかなか得にくいと予想したため。
- 研修の中味について情報がなかった。
- 事前情報が少なく、何をやるのか全くに近い程わからなかった。
- 事前に内容がよく分からなかった。
- 事前に何も知らされていなかったため。
- 短時間でコミュニケーションスキルが向上するとは思っていなかった。
- どういう内容かがわからなかった。
- どのようなFDか全く知らされていなかったため。
- どのようなことを行うか分からなかった。
- 内容が不明だったので。
- 内容が全くわからなかったため。
- 内容について事前に知る機会があまりなかったため。白紙で参加した。
- 内容についてほとんど知らされていなかったため。
- 内容について良くわからなかったため、何とも言えない状況だった。
- 何をやるか具体的なことを知らされていなかったため。分からずに参加したため。
- 何をやるかわからなかった。
- 何をやるのか、いまいちピンとこなかったため。
- 何をやるのかあまり考えていなかった。
- 何をやるのかナ？との不安もあったし義務感も心を支配していた。
- プログラムを見ただけでは何をやるのか全くわからなかったため多少不安があった。
- 前もって情報をあまり知らされていなかったため。
- 前もって知らされていなかった。
- 全く経験がないため。

【あまり期待していなかった】

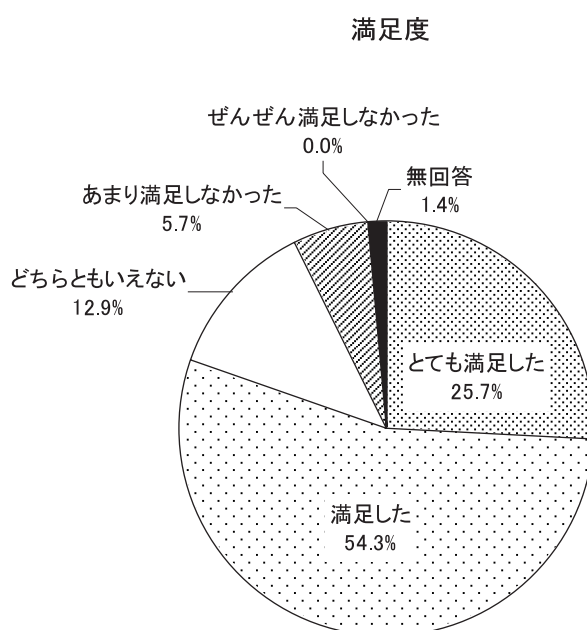
- 「自己発見」のような自分探しは苦手。
- 「何をさせるんだ」という思いが少しあった。
- 具体的内容が不明であったため。

- 
- 研修の目的が明確だと感じられなかったから。
 - 事前に研修内容が詳しく知らされていなかったため。
 - 事前に目的とするところがわからなかったため。
 - 内容がわからず、「コミュニケーション」を実習で学ぶのは難しいのではないのかと
思っていたため。
 - 内容がわからなかったため。
 - 内容についてほとんど知らされていなかったので、判断できなかった。
 - 内容の詳細が知らされていなかった。「傾聴がテーマ」と言われてもピンとこ
なかった。
 - 内容を知らなかったため。
 - 何をするのか知らされていなかったため、期待もしなかった。
 - 本研修の内容や目的をあまり聞かされていなかった。

【ぜんぜん期待していなかった】

- コミュニケーションについては自分なりに研究していたためほとんど新しいこと
はないと考えていた。
- 自分の意志で参加したのではなく、職務として参加したにすぎない。
- なにも情報がなかった。
- 何をするか全くわからないため、目標設定できなかった。

Q2. この研修を受けての満足度とその理由について



満足度		とても満足した	満足した	どちらともいえない	あまり満足しなかった	ぜんぜん満足しなかった	無回答
全体	70	18	38	9	4	0	1
		25.7	54.3	12.9	5.7	0.0	1.4

(上段:人, 下段:%)

フリーコメント

【とても満足した】

- 新たな自分の発見もあり、普通話さない先生方とも共通の目的などを持って、一つのことをやりとげることの楽しさが充実していた。
- 得たものが多かった。
- 多くの得るものがありました。このような機会でないと話せないことができて、よかったと思います。
- このような研修をこれまで受けたことがなく、自分のことを知る良い機会になった。
- これまで見て見ぬふりをしてきた自分の短所（コミュニケーションが苦手、というより消極的）に向き合えた。そして、他人のコミュニケーションではどこが優れているのかを改めて見つめることで、自分の短所の改善方向・手本がわかった。
- 自分が意見をなかなか主張できないということを改めて実感することができたため。
- 集団の中で自分がどんな風にふるまっているか、自分の意志がどんな形で集団に影響するかわかった。相手の意見をくみとってから考えること、そして全体の意見形成へむけてギロンする重要さに気付いた。いろんな先生と仲良くなれた。
- 多彩なメニューを、それなりに一生懸命対応してほぼ満足できる結末で終わることができた。
- 楽しかった。人と話すのが好きなので、こんな方法を土台にしてコミュニケーションを取ればよいかと思った。
- 楽しかったし、コミュニケーションスキルについて多くのことを学べたと思う。
- 楽しかったし、他の人のコミュニケーションのとり方をみて学ぶところも大きかった。
- 短時間にも関わらず、コミュニケーションに関して身をもって勉強することが出来たから。
- 単純には、まずおもしろかった。飽きることもなかった。自分の中にあるいろいろな姿を発見できた。
- チームビルディングの大切さと楽しさを学んだから。
- 地図の問題で一度それなりの解答もできていると、その先入観を崩すことが大変困難であることを実感した。また他者からの自己分析でも自分が感じていたことをそのまま指摘された。
- 非常に有意義でした。
- 普段以上の交流ができた。コンセンサス形成の体験ができた。学生もこのような研修をうけるのか、ということが分かった。
- やっぱりよかった！

【満足した】

- 「傾聴」「コミュニケーション」「コンセンサス」等について、重要な点を確認できたため。



- 新しい自分の一面を発見できた。
- 改めて自分を見つめ直す機会になった。学生に対する態度も（いつも心がけているつもりではあるが）振り返ることができた。
- いままで経験したことがなく、結構つかれたが、グループのみなさんとやりとげることができ、満足している。
- いろいろな方と知り合いになり、また楽しかった。
- 化学科の教員と普段とは異なるテーマについて話し合えたので。
- グループディスカッションを楽しめた。イメージ交換が為になった。
- グループの構成員に感謝したい。「バス」の実習は面白かったが位置づけがよくわからなかった。非言語コミュニケーションの役割が大きいといいながらこの実習は「言葉どおり」にうけとるとできる。
- グループメンバーに恵まれ、大変心地よい体験をすることが出来ました。ファシリテーターの方も色々御苦労があったと思うのですが、暖かくなごやかな雰囲気のもとで研修が出来るように配慮して下さりありがとうございました。
- 個々のプログラムは面白かったが、全体を通じてどのような気づきを狙ったのかがわかりにくかった様に感じた。
- このような研修を受けるのは初めてだったので、新鮮で面白かった。ただ、新人・古手が混ざっている集団では、やりにくいのではないか。
- コミュニケーションと自己分析とコンセンサスについて考えた。
- コミュニケーション能力を高めるツールとしてのグループワークを少し学べたような気がする。
- コミュニケーションの基本が分かったかな…。
- コミュニケーションの重要性が少しみえた。他の人のおもしろみが見えてきた。
- 最初は期待していなかったが、プログラムが進むにつれて、内容に集中できたので。
- 時間がもう少し経って振り返れば、“とても”になるかもしれない。新しい体験ができて良かった。（知識含む）
- 自己組織が深まったことは確かである。ただしそれをどう生かすかは別問題と感じた。
- 自己理解と他者への理解を見直すチャンスを得た。
- 自分自身が少しみえたのと、他人とも深く接することができたので。
- 自分にとっては学生のころ受けたエンカウンターグループよりもインパクトが弱かった。年を取ったため？
- それなりにどの人も学ぶものがあったと思う。
- 他学科、他部所の方々とグループワークは大変楽しく予想外の結果や収穫があった。
- 他の教員とのコミュニケーションがとれた。自分の思考のクセが見えた。
- 他部署の人と話せた。
- 単純にたのしめて。
- 特に、他者から見た自分については、この年齢になるとなかなか言ってもらえないので、興味深かった。また、企業から大学へ移った時に大学は個人経営的な組織と教えられた

が、協業協励することができることに気づかされた。

- 特に課題、月での不時着が説得力があった。
- ともすると物足りなさを感じるベテラン教員や職員もいたかもしれないが、私をはじめでの経験だったので、参考になった。
- 内容には概ね満足だが、スケジュール密度が高すぎると感じた。
- 年齢的に（私は61歳）いろいろな教員のことをよく知っているつもりだったが、この研修で、そうではなく、まだまだ知らないことがあること、個の力を合わせた時のグループの力を体験できたことが収穫だった。
- 始まる前に思っていたより、面白く集中して参加できた。
- 初めて体験したが、いくつかの驚きはあった。
- 普段ほとんど話していない先生と話すことができた。
- 普通あまり話さない同僚たちの理解が進んだ。
- 平時、会話をする事の少ない他学科の先生や職員と話をし、親しくなれた。
- 目的は別として、積極的に参加した結果、少しずつ面白くなった。
- やや時間が足らなかったのかなと思います。人の目を見て話を聞き、話すことの大切さを改めて感じました。コミュニケーションとは単に意見の交換ではなく自分を表現し、相手を理解するために重要であることを再認識しました。

【どちらともいえない】

- 「自己理解を深める」という目標と実際のワークがどのように結びつくのか疑問が残った。研修対象者の特性をもう少し考慮したワーク内容にした方がよいと思う。
- 新しいことは特になかった。
- 以前いた企業の新人研修の内容とほぼ同じでしたので。しかし、この時期（10年後）にもう一度経験してふりかえることが出来た面もありよかったと思います。
- 企画そのものは勉強になりましたが…。
- 期待が強かった分、どちらかという自己の探求にはあまりならなかったのではないかなと思う。
- 初日のインタビュー課題③④は新人研修や新入生対象には意味があるが、学部教職向けの課題として意義を理解できなかった。
- 大事な研修ではあると思うが、教員が2日間も貴重な時間をつぶすに値するかどうか？
- 他の先生方と懇談できた点では有意義であったが、これでコミュニケーション能力が向上したとは思わない。

【あまり満足しなかった】

- 期待していた内容と違っていたため。
- 教材の内容や記述のしかたの一部にあいまいな表現が見受けられ、メンバー間でベクトルの方向を統一するのに時間がかかりすぎ、議論を深めることができなかった。
- 具体的な社会には利害関係の現実を捨象した一般的心理的効果は却って社会的コンフォ

東邦大学



ーミズムを強めはしないか。

- 私は自分が信用する人のいうことは受けいられるが、そうでないと疑うことをしてしまふ。実習の内容や進め方があまり説得力がなく、意味が分からなかった

【無回答】

- 目的が FD の本質とどう合致させていくのが最後までわからなかったが、こういうこともやるのだという経験は得たが、今後、どう活かすかが難しい。

Q 3. この研修を受けて、傾聴のコミュニケーションについて

どのようなことが大切だと感じたか

フリーコメント

- 「傾聴」につきる。自分本意でなく他者に視点をおいて、聴き合う姿勢の重要性を知った。実行したい。
- 「コミュニケーション→チーム力発揮の基盤」を学んだ。傾聴＝相手の心により添って。
- 相手の気持までくみとる深いコミュニケーションのために、よく聴くことが大切だと思った。
- 相手の心を押し量ること。心の対話が必要であることがよくわかった。相手を知りたい気持ち。
- 相手のことば、判断はそれぞれさまざまなので、まずはよく耳を傾けることがとても大切であることを学んだ。とはいえ、ことばは常に十分でないので、対応も不十分にならざるを得ないことを実感した。
- 相手のことを分かろうとする気持ちや、問題を解決したり物事を進めようとする前向きな姿勢。
- 相手の背景、考え方、気持ちを考え、何故意見が違うかを理解すること。
- 相手の話をきく。
- 相手の良い所を素直に受け入れること、自分に壁を作らないこと。
- 相手のよいところを引き出そうと努力すること。そうすれば理解しあえる部分が増し、新しい発見も生まれ、信頼を築けるにちがいない。
- 相手を聴くことであるが、それを引出す者に、自らをある程度＝し同時にうまく相手から引出す問いを発する必要があるあそうだ。某先生のテクニックを見て、見習うべき所があると思った。
- 相手を信頼すること。
- 相手を尊重する姿勢、どんな意見にも、心に向けて、聴こうとすること。
- 相手を見て、うなづくこと。
- 余り変な構え（予断、偏見）を持たず、なるべく素直な気持ちで聴こうとするという事が大切だと思いました。
- 意見をただきくだけではなく引き出していくことの大切さを感じた。
- 一対一でなくグループでの傾聴においては、発言のバランス、個々のメンバーとの距離のとり方なども、大きな要素であることに気がついた。
- お互いをより深く知り合うこと、共有化をはかることが大切だと感じました。
- 聴くこと。聴き出すこと。自分の意見を言う、伝えること。
- 聴くことと話すことのバランスが大事だと思った。自然にそれが上手にできる人は本当



にすばらしいと思う。

- 聴くことは比較的得意であるが、自分の発言では活かしていくうちにいきおい付き止められなくなる。あまりいきおいを付けないほうがよい場合もあることがわかった。
- 聞くのではなく、聴く、しかも相手の考え方や感じ方を引き出すような聴き方が大切だと思った。
- 共感をもって聴くこと。ユーモアのセンス（高い許容度）。
- 傾聴のコミュニケーションは重要だと思う。人の話に真摯に耳を傾けることは人生のすべての場合で、重要なことだと思つづくと思う。
- 結果だけでなく過程を大事にするということ。異質な人々に関わっていくこと。そのための開かれた態度。
- 固定観念を捨て、素直に話を聴くことが最も大切だと感じた。
- コミュニケーションではまず「聴く」ということ。更に学生など、こちらに自由に意見を言いにくい立場については、相手の感情を判断する。
- しっかり、対応すること。いいかげんにやれば、それが相手に伝わってしまう。
- しっかりと人の話を聴くこと。人をほめること。遠慮せずに自分の意見を主張すること。
- 自分の意見、スタンスをまずもつこと。他人の意見を聴き、その考えをくみとり、自分の考えと重ねあわせてみるのが大切。その上で現状を分析、前提をカクニンした上で、納得いくまでギロンして自分のスタンスを柔軟にして、前向きに考えをまとめていくことが大切。
- 自分の意見を素直に言えること。人々の（他人の）意見がどのような考えに基づいて発表されているのかを理解すること。
- 自分の伝えたいことを少しでもその通りに伝えたいと努力する姿勢。ただし一方的に伝えるだけでなく、逆に相手の伝えようとしていることを裏の気持ちも含めて少しでも聞きとろうとする姿勢。
- 自分は意識しなくてもできていることが、他の人からのコメントで分かった。他の人を評価しない。批判しないというのは重要であるがそれは、当たり前のことだと思う。
- 自分をさらけ出して、主張することは主張することが必要。
- 集団で合意を形成する際には、議長ないしリーダーとなる人の存在が必要であり、その人には参加者の意見を公平に聞いた上で、それを単に折衷するのではなく、最も合理的なものはどれかを判断してそれを全員に説明する能力が必要である。
- 初日の3つめの課題⑤と2日目の課題⑨は、課題解決に取り組むというトレーニングとして、また情報を取捨選択しながら解決へ導くという知的好奇心に結びついた。今日の研修の目的かどうかはわからないが。
- 辛抱強く、他人に働きかけ、何度もコミュニケーションをあきらめず、また、傾聴の姿勢をくずさずにいること。
- 先入観をなるべく持たないこと。相手を下に見ないこと。
- 他者を思う。
- 設定が対教員であって良かったのか？教員間でのコミュニケーション形式を何のために

Q 4. この研修を受けて、今の状態に一番近い気持ちを「ひとこと」で表すと。またその理由。

ひとこと	理由
	共同作業の楽しさ、グループの人々との親密化を実感できた。結構、頭を使いつかれた。
「変わる」。	変わるものの可能性の大切さを改めて実感した。自分も変わり、他人も変化する。変化し、成長していくことの可能性を信じつづけていきたい。
「新人」になった気分。	新人が受ける研修はこういうものでしょうか。
相手の考え方を引き出す聴き手になりたい。	自分は聞くタイプとっていたが、引き出して聴くことまではできていなかった。十分なコミュニケーションには、このことが重要だと思った。
相手の言葉の背後にあるものを汲み取ること。	満足。
ありがとうございます。	コミュニケーションの大切さがわかったし、自分の中の違う自分も発見できたので、今後少し成長できそうだから。
安心。	思っていた自分と見える自分がそれほど違わなかった。
安心。	グループのメンバーに受け入れられたと感ずることができた。想像していた程はストレスを感じなかった。
安ど。	率直に「終わった」という感情と「おもしろかったな」という感情が半々のような感じですか？
今ひとつよくわからない。	受講対象者と課題の選択のミスマッチがあったのではないか。
いろいろなスキルがあるものだ。	話す、聴く、応える、まとめる、討論する等、様々なスキルについて改めて考える機会になった。
おしゃべりを楽しめた。	
面白い体験。	日常のコミュニケーションをふりかえるための仮想的なコミュニケーションを体験した。
面白かった。	それぞれのプログラムに没頭してしまった。
思った以上に疲れました。	やはり、思考実験やワークがあつて、考えることが多かったせいだと思います。
学生に早い段階でぜひこのプログラムを受けさせたい。	最近の学生はコミュニケーション能力が欠如していると思つづく思う。(教員は1時間くらいのこのプログラムについての内容の講演でいいのでは)
学生の話をよく聞く。	研究室の学生とはよく話すチャンスはあるが、じっくりと気持ちを聞いてみたいと思う。
軽い疲労。	いつもと異なり、ややあいまいな目的に取り組んだので、とまどうことがあつた。

ひとこと	理由
くたびれました。	
ぐったり。	慣れないことをしたため。
グループ内のメンバーが親しくなった。	よく話したので。
グループの方々と結びつきが強められた。	グループのわりふりは学習スタイルのちがう人同士…というもので、これまでになかった基準だったこともあり、同じグループになったことに何かの不思議な力を感じた。
この体験が自分の中で何になるのか楽しみ。	自分が変わるきっかけになるだろうから。
このような研修を必要とする「コミュニケーション」とはでないか。	
自己啓発のチャンスに感謝。	年齢を重ねるにつれ、自己啓発の機会は少なくなりつつあるが、久しぶりに自身を見つめるチャンスとなったから。
仕事しなきゃ。	良いリフレッシュになりました。
実生活にうまく反映させることができるのか。	多くのことを学び、感じた気がしているが、ではそれを自分自身のスキルに反映させるにはどうしたらよいのか？性格はなかなか変えられないし…と思っている。
自分の理解。	他人の目を通して自分を見るというのは、楽しいことかもしれない。
充実感、達成感。	日頃やり慣れていないことを楽しく行えたこと。課題も自分なりに真剣にこなせたこと。
充実感。	様々な立場の人がグループ内にいたので、勉強になることが多かった。新鮮な経験をした。
少し開放された。	positive strokeの影響なのか、今迄自分を制約していた自己規制から少し開放してもよいと感じている。
スタート。	2日間でたまった、あるいはおくれた仕事をとりもどさねばならないため。
すっきり。	最後の自分の持ち味&アドバイス印象が残っている。(先ほどまでは「つかれた」だった。おそらく、飲みすぎと昼食後だったせい)
スッキリした。	自分を見つめ直す良い機会だった。
大切な出会いが出来たこと。	大学に着任し2年目でしたが話しをしたことのない先生方と色々な議論が出来たことが良い経験となりました。
多種多様。	そのまんま。
楽しかった。	チームプレーで6人で協力し合って、ゲームを行い、なし遂げたから。
疲れた	
つかれた。	2日間朝から慣れてないことをするのは疲れる。
疲れた。	アクティビティが詰まり過ぎている。もう少し余裕がほしい。

ひとこと	理由
疲れた。	気をつかう。ゴールがわからず走るの難しい。100m走か10km走か走り方が違うのと同じ。
疲れた。	細かい事を考えたから。
つかれた。	時間つぶしとしてはおもしろかったが、あまり何かを学べた気がしない。
疲れた。	少し長すぎた。
疲れた。	ほとんど話をしたことがない年長の先生方とのグループワークは緊張した。特に、最後のイメージ交換のワークは冷や汗が出た。
照れくささ。	皆に対してどういう自分が写っていたかを思うと多少の照れくささを感じる。皆にほめられたことも。
ニュートラルの意識。	話や思考にいきおいをつけることは必要だが、他者とのコミュニケーションやプロジェクト遂行には障害になる場合もある。自分の今のような思考状態にあることを意識する。
はずかしい。	今まで、メンバーの意見を引き出す努力、まとめる努力など考えもなかった。ただただ、話すだけだった。
人が理解し合う基本はコミュニケーション。	他者を知ることはうれしいことだから。
人は少しずつ違った意見を持ち、それを知ることがとても大切。	これまでは、自分の意見をおすか、自分が引くかという考えだったが、全体に自分を、自分に全体を反映させることができるし、とても大切だと思うようになった。
疲労感。	ワーク内容への異和感。
奮起する。	今回意見をあまり言えなかったため、より自信や明確な意見を持つようにしたいと考えたため。
勉強になった。	
ほっとした。	ともかくこなせたので。
ほっとしている。	やはりどこか緊張しているところがあり、研修が終了安心した。それから、メンバーから肯定的FBをもらいそれもよい材料。
ホメ99、ダメダシ1。	特に理由はありません。
前向き。	長年の経験されてきたこと、現在の重圧が大きすぎる。
前向きな自分。	他の人に指摘されたことを受けて、少し自分を変えてみようかと前向きな気持ちになった。また、後押ししてもらった。
まだ自分も変わるかもしれない。	今は話がうまくても昔は大人しかたという人がいた。会話に消極的な自分も変わるかもしれないと思えた。ただし、その人はそれなりに努力したらしいので、自分も今の状態であきらめず努力が必要。
満足。	Q2と同じ（このような研修をこれまで受けたことがなく、自分のことを知る良い機会になった。）
満足。	プログラムが素晴らしかった。

『FD研修』アンケート集計

ひとこと	理由
満足感。	グループのコンセンサスを互いにコミュニケーションをはかりながら得られたこと、それを自分にもできたこと。
満ち足りた疲れと不安。	疲れたが充実した2日間だった。ただ、自分の「スタンス」がそんなに大きく誤っていなかった確認が出来たが、その先への進み方の方向が見えてこない不安感。
もっと大胆に。	冷静な分析が出来たとしても、上手に主張しなければグループとしてはうまくいかない。
やっと終わった…。	とは言え、やはり自己と向きあうのは苦手である。
リフレッシュ。	普段の仕事と異なる目的で思考することに時間を費し、意見交換ができたため。
分かってはいるけどやめられない。	改善点は明確になったが、いかに改善すべきか、またそもそも改善することがよいかどうかは別問題と感じました。
	取組み枠組みへの懐疑（グルーピングへの個人意思の欠缺） 民主的合意形成プロセスにおける枠組参加への個人意思の欠如は集団の正当性を消極的なものにならないか。
	わかりやすい説明だった。

Q5. この研修の講師について感じたこと

フリーコメント（満足度別）

【とても満足した】

- 「はぎれ」と「テンポ」が良い語り口が素敵でした。各チームの進行状況に応じて時間配分も good でした。
- 明るく、わかりやすく、とてもよかった。
- ありがとうございます。
- お疲れ様でした。臨機応変に対応して下さったのに感謝します。ただ、「先生」にやや気を使いすぎ。もっとフランクでもよいのではないかと。テキパキと上手にすすめていただきありがとうございます。
- 時間をもて余しておしゃべりしている時間が長かった。もう少し迅速な進行でもいいと思う。
- 親しみやすいと感じた。
- 少しききとりにくい感じがした。はっきりとした話し方でも良いのではないのでしょうか？
- スポーツをやっていた方（大学のトップレベル）が、様々なジャンルで活躍する姿を見ることができて良かったです。これからもスポーツマンとしてのプライドを持ち続けながらこの職における skill をさらに brush up して頂きたいです。
- 他のグループの思考過程とその結果をもう少し知らせてほしい。自分のグループ内の過程しかわからない。
- 的確な御説明を頂きました。ショート&コンサイスで、特に理科系向きかと。
- とてもうまく全体をリードしていただいた。個別の意見や質問は場合によっては切ってしまうのもよかった。
- どのような意見も平等に扱って、人のよい部分を引き出していくスキルが高いと思った。
- 歯切れがよく、おちついた語り口の中に、ふしぎな説得力がありました。
- はっきりした口調でわかりやすく好きです。プロを感じました。（時間の設定などで）
- 非常にわかりやすく、何が目的、目標なのかを熟知してワークに取り込めた。
- やはり講師を勤めるだけあり、話がうまい。残念であったのは今回は各人の作業中心であったので、講師の先生の講義をもっと受けたかったし、直接話をしてみたかった。
- やりづらい大学教員を前にして、堂々と研修を進行されていた。
- リーダーシップをお持ちで人をそらさずこのようなワークの講師に向いていらっしゃると思った。

【満足した】

- 言いたいことを言う理学部教員集団を前に、2日間どうもありがとうございました。プ

ロのファシリテーターの姿を拝見したように思います。

- うまい。
- 上手くコントロールされたと思う。
- お疲れ様でした!!
- お話がわかりやすく、聞きやすかった。
- グループの人同士がすでに知っていた人なので、知らない人(新人) 同士とかでやると、さらに良い研修になると思った。
- 研修者からのネガティブな意見に反論せず、「ただ聴く」に徹していたと思う。
- 研修による「収穫」を感じているため。
- 講師をやる一方、経験などを増やす努力をしている。
- 答えにくい設問が多い中、何とかやりとげることができたのは講師の力量によると思われる。
- ご本人に対しては特にはないが、職場での改善としては、管理職教員、FD としてなかなか結果がつかないでいるので、その原因を追究できるきっかけの研究を増やして頂きたいと思います。
- さすがベテランだと感心することが多くありました。
- 親しみやすく、話もわかりやすかった。大変良い印象です。
- 受講生に適確な指示ができていた。リラックスさせるような気配りを感じた。
- 状況に応じて進行を調整してくれたので、やりやすかった。
- 進行がお上手だと思いました。またよくグループを見てらっしゃる点も流石だと感心しました。
- 適格にコーディネートしていただいた。
- 積極的で楽しくグループワークを展開される姿は、好感出来ました。
- 大学のしかも理系の先生方を相手に 2 日間の講師を務められるのは、かなり神経を使われたのではないのでしょうか、本当に御苦労様でした。ファシリテーターの姿勢から色々学ばせて頂く音がありました。とても参考になりました。
- 大変おつかれ様でした。批判精神あふれる大学教員の相手はなかなか面倒だったと思います。
- ていねいでわかりやすかった。
- 適格な指摘をしてもらいました。声も大きく、聞き取りやすかったです。
- とても熱意を感じました。ありがとうございます。理系教員ならではの、理届っぽい質問にもご対応頂きお疲れ様でした。
- 努力されている様子がうかがえる。
- 慣れている。
- 慣れない形式の研修で少し疲れた。
- はっきり、わかりやすく、タイミングよく話しをして、わかりづらい説明は全くなかったです。
- 人が好きそうである。

東邦大学



- ファシリテーターとしての役割を充分にはたしていたと思う。
- マニュアルに忠実である印象を与えないように、もう少し工夫した方が良い。
- 安田さんの感じが良いので、良い雰囲気で作成ができた。
- よい。
- 良いと思います。
- わかりやすく、楽しく進めて下さった。ただ、時間については、もっと守らせて方がよいのでは。結構あき時間ムダな時間が生まれたと思う。
- わかりやすく歯切れよく進行して下さった。

【どちらともいえない】

- 一生懸命取り組んでくれたと思う。(教員集団対象ではさぞかしやりにくかったと思うが)
- おつかれさまでした。
- 今回のようなアクティビティの背後にどのような学術的理論があるのか、よく勉強された上で、それもわれわれに説明していただきたかった。
- 大学の教員ということで、やり難い状況の中で、進行役として非常にスムーズに場を導いて頂いたと思います。ありがとうございました。
- 熱意は感じられた。
- 良い意味で、まとめ役として良かったです。

【あまり満足しなかった】

- 適確にふるまっておられたと思います。
- もっと自信をもって進めた方がいいと思う。
- 良いと思います。

【無回答】

- コミュニケーション（聴き手が不足、それが「敢えて」なのかもしれないがどの位置に立つかわからない。

Q6. この研修について感じたこと、気づいた点など

フリーコメント（満足度別）

【とても満足した】

- 2日間受けさせていただいて本当によかったです。プレゼントカードによって、明日から仕事に対する意欲が沸きでてきました。
- 今までも自分のコミュニケーション能力は著しく低下していると自覚していたが、それで困ったことや悲しいことはなかった。ただ、今回、様々な議論に参加し、上手くできないストレスがあり、自分には向上心があることが分かった。本当に意外でした。
- 受ける前は、それほど乗り気ではなかったが、受けた後は、ぜひチャンスがあれば又受けてみたい。
- 学生にもやってもらいたいと思った。
- 機会があればまたこのような研修に参加してみたい。
- 研修が研修で終わってしまわない様にするには…?!
- このような研修は、プラスになることがたくさんあると思います。先生方や職員の方もみな真剣に取り組んでおられました。この研修の成果をこれからの教員生活につなげたいですね。ありがとうございました。
- これまでは自分のためというよりも大学・学部・学生のためという内容のFDばかりであった。しかし今回は自分の向上も図れる企画であったし、内容も自分にぴったりのものであったので、非常に有意義な2日であった。
- 今後どのようにこの成果を発展させればよいか、考えがまだまとまらない。
- 最初のグループ分けでより男女比や年を明確に分かれるようしたほうがよいと思った。
- 第2のステップがあるようなら、ぜひ受講したい。昔流行したセミナーのようなもの（＝話に聞いただけですが相手の悪いところを言い合うらしい）とはやり方が反対でよかった。スケジュールが少しきつかった。
- 大変おもしろいプログラムでした。普段考えないことをいっぱいやったので少し疲れしました。有意義な2日間でした。どうもありがとうございました。
- 人は気付いてもすぐには変わりきれないので、たまに、このような形で（それ以外でも）、再認識させる研修があってもよいと思う。
- 問題がおもしろい。グループディスカッションでは自分の弱点が見える。

【満足した】

- 「教育の質的レベルアップの問題」とか、テーマを決めてグループワークで展開してみる！良いテーマがあると、もっと有意義かもしれないと思いました。
- 「月で遭難」の問題の解が平凡であり、もう少し現実離れた解を予想していたので、残念だった。



- 「バスは待ってくれない」ワークのあと、そのセッションについてのグループでのふりかえり（シェア）がなかったのはなぜだったのでしょうか？（時間の関係だったのでしょうか、その点が少し気になりました）。
- 一度は受けた方が良いと思う。
- 一般的なコミュニケーションだけでなく、状況を特化した場面でのコミュニケーションなどについて今後学びたいと思います。こちらこそありがとうございました。
- 今すぐに成果に気づかなくても、今後に生かされるような気がする。
- 学生にもこの研修を受けてもらっていますが、きっと彼らのこれからの人生に役に立つものだと思います。
- 各題目に対して、もっと中身に入っていきやすいようなイントロにすると良い。また、各題目の特に意識すべき点を挙げる方が良いかもしれない。
- 教員にはあまり適さない課題が出された。
- グループ内のコミュニケーションをとる（合意を得る）ために、リーダーシップが重要。この研修は、むしろ学生が必要としていると思う。
- 研修結果をどのように役立ててゆけばよいか、まだ十分に理解できないが（特に学生指導で）、できるだけ忘れないようにしたい。
- この研修は大変ためになったが、このような会社があることに感心した。
- このように普段使わない頭で考え、自分自身をみつめなおし、他者のことも思いはかることはとても大切なことであると思いました。
- 今回出来なかった内容についても別の機会（FD）に行って欲しい。
- 再確認できた。
- 最後のイメージ交換をスムーズにすすませるために、グループワークをこなしたのかな？という感じでした。
- 自己分析の活動がもっとあるといいように思いました。
- 職業柄、ユニークなことを重要視しやすい。どのようなユニークさがグループワークで有効か分かるようなプログラムがあると良いと思った。
- 正解がないという立場は悪くないが、解が2つ以上ある状況を例示しないと説得力がない。
- 前半は時間が長く感じられたが、だんだん時間経過が速く感じるようになった。ありがとうございました。
- 妥当解について、もう一度みんなで議論してみたかった。学生について同じ研修をするとどうなるのか興味を持った。
- ためになることが多く大変勉強になった。
- 地図を描く課題が全体のテーマとどうつながっているのかがよく分かりませんでした
- ところどころで少し時間が長いと思った所があった。他グループで作業が終わっていない為なのだが、時間を切った以上はそれに合うようにグループ内で上手にコントロールするよう、うながしてもよかったのではないかな。
- 人とのふれあいに笑ったり、一緒に考えたり、短かい時間の中で、長所・短所などをす

るどく見ぬかれたことに驚いた。2日間の研修時間をありがとうございました。

- やや時間が不足気味であった。
- 良い悪い、評価をしないで進めていくので構えずに参加できた。
- よかった。
- ラーニングバリューさんには以前（NTT 研究所にいたとき）もお世話になったが、内容もすっかり忘れていたので、新鮮な研修を受けられました。ありがとうございました。
- 分かりやすかったです。

【どちらともいえない】

- 教育に役立つ研修だったかどうかあまり自信がない。
- 時間の制約で仕方ありませんが、もっと深く、そして、理学部という組織にちなんだ課題があると、さらに活発な活動が出来たように思いました。
- 自己の探求としてのプログラムは、大学の教員間のプログラムとしては若干マッチングしていないような気がする。もう少しワークを緊張感のあるものにすべきではないかと思う。
- 時々「くだらない!」という正直な気持ちが沸き上がってくるのを押さえることができず顔や態度で出ていたらしい（グループ内教員に指摘を受けた）。
- 普段あまり話をしない人がいろいろな考え・意見を持っていることを再認識させられた。そのことは評価できる。
- もっと自然の中でできたらよかったかもしれない。

【あまり満足しなかった】

- アンケートの結果をもとに、実習内容を改良して行ってほしい。特に英語を日本語に直したものは、文章が分かりにくい。
- グループ分けのときに個人の意志が作用していないのに、そこで集団的同化するためには同調圧力が働く。
- 時間がかかると思いました。
- 特になし。

【無回答】

- 相手に応じてコミュニケーションのとり方を変えていかねばならないので同業者間よりもターゲットを変えた関係での研修の方が得るものは多かったのではと思う。

第8回理学部FDは、ユーカーリが丘ウィシュトンホテルにて、1泊2日での開催となりました。

今回は、(株)ラーニングバリューのご協力を得て、2日間「傾聴」をテーマにしたワークショップ(「自己の探求」)を行いました。

6～7人のグループを作り、そのグループで2日間、お互いを知るためのアクティビティや、問題解決のアクティビティをみっちり行い、コミュニケーションのあり方、自己の振り返り、他人との協働などについて、研修を行いました。

また、今回のFDの特筆すべき点として、職員の方が、11名参加したことが挙げられます。大学におけるコミュニケーション、チームビルディングが、教員間だけで行われるわけではありません。教員と職員の間での協働作業も、これからの大学づくりには、重要な要素になってきます。その意味で、今回のFDが教職員混合になったことの意味は大きいと思われま

す。グループ・コミュニケーション主体の研修であり、また、教職員混合というこれまでにない形式でのワークショップとなったため、参加者のみなさんには、緊張やとまどいが大きかったのではないかと思います。また、共通の目標を掲げたワークショップではなかったため、「自己の探求」をやり終わっての個々人の感じ方は、おのずから多様なものとなっているかと思われま

す。参加者のアンケート回答を拝見すると、多くの方がこのワークショップを有意義だったと感じてくださっているようでした。その一方で、2日間の活動を通じて、いろいろと違和感をおぼえたり、居心地が悪かったりという場面もあったかと思ひます(「2日間を終えての気持ちを」というところでは「疲れた」や「ほっとした」がとても多かったのは印象的でした)。

「ワークショップを通じて何かを感じること」——それが、今回のFDの主旨であったといえます。肯定的な印象であっても、否定的な印象であっても、この2日間で参加者のみなさんが感じ取ったさまざまな印象や感想は、いろいろな形で、これからの仕事の中に活かされていくのではないのでしょうか。このワークショップが、これからの理学部の発展のために、直接にせよ、間接にせよ、何らかの形で、貢献できたとすれば、企画・運営にあたった教育開発センターとして、それに勝る喜びはありません。

2日間の長いワークショップ、お疲れさまでした。

来年は、習志野キャンパスにて、1日の日程で開催の予定です。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。